

閉塞感打ち破る展望語り、近畿でこそ躍進を

後援会近畿ブロック連絡会結成総会での市田忠義書記局長の記念講演より

4月22日に行われた日本共産党後援会近畿ブロック連絡会結成総会での市田忠義書記局長(参院議員)の記念講演(抜粋)を紹介します。



二つの柱で感じている問題をお話ししたいと思います。今日は後援会近畿ブロック連絡会の歴史的な結成の場です。そこで一つ目の柱

は、近畿ブロックの位置と役割について、もう一つは、来るべき総選挙に向けての私たちの政治的立場—論戦や対話を進める上での基本的な観点、考え方について大事だと思ういくつかのことを述べてみたいと思います。

●近畿は日本共産党の前進に決定的な位置を占める

まず近畿ブロックの全国の中で占める位置と役割についてであります。結論からいいますと、全国に衆議院のブロックは11ありますが、近畿ブロックは得票、党の勢力、後援会の数、どれをとっても全国トップクラス、ほとんどが第

1位の座を占める、いわば党の前進にとって決定的な位置を占めているのが近畿です。ここでのがんばりいかんが全国的な前進・後退に直結するということです。

市田さんはこのように述べ、以下の指標を明らかにしました。

○全国の中の近畿ブロックの位置と役割

▼国政選挙の得票

11ブロックのなかで最大の有権者(約1680万人)をもつ近畿ブロックは、党支持者の割合も高い

	比例票の有権者比 (全国)	近畿ブロック 比例票の有権者比	ブロックごとの順位
09年総選挙	7.03%	9.56%	①東京9.61%②近畿③北海道7.26%
10年参院選	6.10%	8.80%	①近畿②東京8.19%③北海道6.74%

わが党の比例票の5分の1は近畿ブロックの得票

	比例票(全国)	近畿の比例票	全国における 近畿の割合
09年総選挙	4,943,886票	1,067,443票	21.59%
10年参院選	3,563,556票	807,127票	22.65%

▼国会議員数

衆参15人の国会議員の4割が近畿ブロック出身

	全国	近畿選出(出身)
衆議院	9人	穀田、吉井、宮本
参議院	6人	市田、山下、井上

(井上氏は京都と東海ブロック、北陸・信越ブロック)

▼地方議員数(4月16日時点)

党地方議員の5人に1人は、近畿ブロック

地方議会の8割で議案提出権を持つ、強力な党地方議員団を擁する地域

	全国	近畿	近畿の割合
地方議員数	2,756人	524人	19.01%
議案提出権を持つ 議会の割合	1789議会のうち 809議会=45.22%	204議会のうち 162議会=79.41%	

▼党勢(4月1日時点)

党員・後援会員は、全国の4分の1をしめ、有権者比でも全ブロックのなかで1位

	全国に占める割合	有権者比順位
党員	24.17%	1位
日刊紙	22.87%	2位
日曜版	20.53%	3位
後援会員	25.06%	1位
支部数	21.65%	

○近畿ブロックの歴史的な奮闘

市田さんは近畿ブロックの過去の奮闘に触れ、次の指標を明らかにしました。

▼中選挙区時代に6府県すべてで国会議席をもっていたのは近畿ブロックだけ(複数県で構成するブロックの場合=単独の東京、北海道を除く)

□1961年の綱領確定以後、第1の躍進の波の時期、72年総選

挙と79年総選挙

—72年総選挙 全国で39議席を獲得。近畿は12議席で約30%。定数5の京都1区で初めて複数を獲得、大阪は全選挙区で勝利

—79年総選挙 全国で41議席を獲得。近畿6府県の18選挙区で16議席を獲得、全国の4割近く

□第2の躍進の波の時期

—96年総選挙 小選挙区比例代表になって最初の選挙
比例は全国24議席、近畿は6議席。小選挙区で勝利した2つのうちの1つ=京都3区・寺前巖（もう一つは、高知1区・山原健二郎）。26議席のうち7議席（27%）が近畿
—98年参院選 党の最高得票の選挙（820万票）
比例と選挙区で15議席（比例8、選挙区7）。近畿は大阪、兵庫、京都の選挙区で勝利

▼定数1の補欠選挙で、2度勝利した。他のブロックにないこと
大阪選挙区、73年補選で沓脱タケ子さん、88年補選で吉井

●「閉塞感打ち破る党」に確信を持ち、展望を大いに語ろう

次に総選挙での論戦や対話のうで大切だと考えている、いくつかの問題について述べたいと思います。

□わが党に支持が集まらない仕掛け作りをよく見る

まず、「二大政党づくり」が破たんしていることは、皆さんが実感されているとおりです。民主も自民もダメ、志位委員長の言葉を借りると「民主党と自民党の違いは、顕微鏡で探してもわからない」という状況です。野田首相は施政方針演説で、麻生元総理と福田元総理の言葉を引用して“この言葉と私の考えは全く違いがない”ということわざをわざわざいしました。そういう中で、みんなの党とか橋下「維新の会」とかが、閉塞感にさいなまれている国民の思いに付け込み、マスコミの大キャンペーンもあってより反動的な方向に日本の政治を持っていってしまおうという危険な流れも生まれています。

そこで大事なことは、いま破たんしつつある政治の中身は、アメリカいなりと財界中心の政治であるわけですから、それを大本からメスを入れて変えようというビジョンを堂々と示している政党は日本共産党だけだということに確信を持つ、ということです。現状の告発と同時に、日本共産党は今の閉塞感をどう方向で内政でも外交でも打開する展望を持っているのかを大いに語っていく。そうしないと「民主も自民もダメ」と思っている人が、わが党にこないで別の党に行ってしまう—そういう仕掛けがいまやられている。そこをよく見ることが大事だと思います。

□2回の躍進の時期を上回る可能性が横たわっている

先ほど70年代の第1の躍進のことをいいましたが、「第2の躍進」の時期は、1993年の選挙で行われた「自民か非自民か」という仕掛けが破たんした中で生まれました。この選挙は「二大政党づくり」が始まった最初の選挙でした。そのあとの96年の総選挙では小選挙区制が導入されたもとでも2つの小選挙区の勝利を含め26議席に躍進し、98年の参議院選挙では史上最高の820万票を獲得しました。

今また大きな破たんが「二大政党づくり」で起き、過去の躍進の時期以上に矛盾も鋭くなり、国民の暮らしが大変になっている。で

英勝さんがそれぞれ勝利。衆院・参院含めて、国政の補欠選挙でわが党が勝利したのは、過去この2つだけ。

□誇りと責任を自覚して

市田さんは以上の指標を示し、以下のようにのべました。

近畿ブロックは、国会議員の数でも、得票の数でも、党員・後援会の数でも全国最先端を走ります。文字通り「近畿が変われば日本が変わる」「日本の夜明けは近畿から」といってもいい過ぎでない状況です。

近畿の動向が全国の消長を決める。そういう位置と役割に誇りをもつと同時に責任を自覚してお互いがんばりたいと思います。

すから、がんばりいかんで「第1の躍進」の時期の600万票、第2の躍進の時期の800万票以上、われわれの得票目標は650万票ですが、これを超えるもっと高い得票を勝ち取れる条件が横たわっている。そこに確信を持って大いにがんばる必要があります。

しかしそれを勝ち取るには、現状の告発とともに出口、活路を求めている多くの人々に明るい展望、希望を語る必要がある。大阪で行われた「経済提言」の際に、ある方が「われわれは苦しいんだから現状の告発はやらなくてもわかっている。問題はそれを打開する明るい話を聞きたかったが、今日はそういう話が聞けて非常によかった」という感想が寄せられたそうですが、非常に大事な点だと思います。

□みんなの党は「財界の党」

市田氏はこの後、内政・外交問題について論戦の角度を詳しくのべ、民自公の増税勢力を批判した後、みんなの党について次のように批判しました。

時間の関係でみんなの党について詳しくは述べません。一言だけいっておくと、この前の渡辺喜美代表と野田総理との党首討論を見て、あれは野田さんの勝ちだなと思いました。渡辺氏の「増税の前にやるべきことがある」と論を展開しましたが、野田総理は「荒唐無稽(けい)なアジテーションだ」といいました。その通りだと思いました。

みんなの党が予算組み替え要求を単独で出しましたが、何と社会保障予算を6兆3000億円削ると書いてあります。小泉内閣のときに社会保障がズバズバにされましたが、あのときは毎年2200億円ずつ削った。これはひどいといっていたんですが、6.3兆円というとその30倍です。

小泉内閣のときに毎年削っていた30倍をいっぺんに削る、しかも来年度の社会保障予算は26兆4000億円ですから、その26%を削減することになります。一方で国と地方で大企業中心に7.6兆円の減税をやれといっている。その後で消費税増税をやれ、彼らがいっている「増税する前にやるべきことがある」というのはこういう中身です。これはまさに荒唐無稽(けい)であって、みんなの党というより「財界の党」だと思います。

●橋下「維新の会」と正面からたたかう、ただ一つの党の躍進を

最後に市田さんは橋下「大阪維新の会」について次のようにのべました。

□中身を見れば、こんなにたたかいやすい相手はない

冒頭に「二大政党づくり」が破たんするもとで、国民の閉塞感に乗じて反動的にそれを打開する流れが生まれている、といいました。その一番の震源地が大阪であり、近畿です。巨大メ

ディアが既成政党はみんなダメだ、共産党を含めて既成政党の中に入れて橋下「維新の会」を持ちあげています。総選挙公約である「維新八策」の原案、これはまだレジュメ程度ですが、これは坂本竜馬の「船中八策」をもじったもので、恐らく竜馬は草葉の陰で嘆いていると私は思います。とんでもない代物ですが、巨大メディアが無批判に持ち上げている。

私は東京に住んでいます。東京のマスメディアも書きますが、

関西で発行される巨大ディアは書き方が違います。ほとんど一面トップの扱いです。全国的に影響はありますが、近畿の影響はすごいものがあります。「何かやってくれるのではないか」という期待感を意識的に作りだして、自民も民主もダメと思っている人々が共産党に来ないよう仕掛けを彼らは必死で作っています。

しかし、軽視してはいけませんが、中身を見ればこれほどたまたかいやすいものはありません。新しい装いをしているが本当に古い。卒業済みの、国民が審判を下した古い政治の再現に過ぎません。中身をよく見るのが大切だと思います。

□古い政治の寄せ集め、新しいものは何もない

今の橋下「維新の会」の流れは、二つの要素からつくられています。第一の要素は、極端な新自由主義、対米従属、憲法改定など古い政治の寄せ集めであります。「維新八策」には新しいものは何ともありません。

「維新」がめざす国家像を読んでみますと、「自立する個人」、「自立する地域」、「自立する国家」—「自立」「自立」という言葉が並んでいますが、橋下徹氏はこう解説しています。「格差拡大はダメ、競争はダメ—このような甘い言葉こそが本当に危険だ」「他者に依存し過ぎる日本の今の悪しき流れを断ち切って、自立する個人、自立する地域、自立する国家をつくりたい」。“格差はダメなんて言っている考えは危険だ、その考えを一掃するんだ”、“格差は拡大せよ”ということ公然というのが彼の考えです。徹底した競争主義を押し付ける立場がむき出しです。

「自立する個人」の中身は、小泉「構造改革」を上回る極端な弱肉強食の新自由主義、簡単にいうと仕事も社会保障も全部自己責任でやりなさい、そして労働市場の自由化、流動化を明記していますが、派遣労働のような使い捨て労働をもっと増やせ、という考えです。混合診療も解禁すべきだ、とっています。地方交付税はやめる、消費税は地方のものにする—こうなると地方は消費税を引き上げるかサービスを削るか、どちらかの選択が迫られる。これが「自立する地域」の正体です。すなわち、国が暮らしを守る責任をすべてなくしてしまって、地方に消費税をあげるか、サービスをやめるかの競争をさせようというのが「自立する地域」の中身です。

「自立する国家」とは何か。これは日米同盟を基軸にする、米軍新基地建設を進める、TPP 推進も「維新八策」のレジュメには明記されています。対米従属政治で新しいものは何ともありません。

私は彼の憲法9条観を読んで驚きました。9条に敵意むき出しです。こうしています。「自分の命に危険があれば他人を助けられないのが9条の価値観だ」。9条がなかったとき、すなわち戦前は「他人のために汗をかこう、場合によっては命の危険も負担せざるを得ない、とやってきた。あの時代はよかった」。要するに戦前はよかった、軍国主義と戦前の時代はよかった、という驚くべき9条観です。荒唐無稽さは「がれきの処理が進まないのは憲法9条があるからだ」とまでいいます。極端な新自由主義と対米従属と改憲志向が特徴です。

□民主主義を窒息させる恐怖・独裁政治

もうひとつの要素が、民主主義を窒息させる恐怖政治と独裁政治です。これまで何度もいわれてきたことですが、その政治手法は「選挙で勝ったら何をやってもいい」という考え方です。市職員への「思想調査」で、街頭演説を聞きに行ったかとか、誰に誘われたかなどを全部いわせる、いわなかったら首にする—これは単に大阪市の職員の思想信条を踏みこむだけでなく、誰に誘われたかまで聞くわけですから、市民・国民に対する密告を奨励する。これは日本の政治の歴史の中でも戦前の特高警察がはびこった時代以外にはなかったような暗黒政治

を、大阪を拠点に全国に広げようというのが、橋下「維新の会」の本質です。

しかもあの思想調査をやるきっかけになった「維新の会」の質問は、でっち上げにもとづくものだったことがわかった。ところが橋下氏は「濡れ衣を晴らしてやった」「何も問題はない」と開き直った。ヒトラーと同じです。自分で国会に放火しておきながら、「あれは共産党がやったんだ」と弾圧して独裁政治をやっていたのと同じ手法です。私も行った中之島の公会堂での演説会（大阪4区演説会）で紹介されましたが、その日の朝、公会堂でやられた大阪市職員の入庁式で彼は「皆さんは国民に対して命令する立場だ」といった。しかし、公務員というのは全体の奉仕者だと憲法に書いてある。市議会でもわが党の議員が追及すると「公務員は市長の顔色を見て仕事をしろ」という答弁をした。すなわち、公僕たる公務員を橋下氏の下僕にする、橋下氏の従順な“しもべ”になるのが公務員なんだ、ここまでいいました。

岸和田の府立高校の校長、橋下さんの親友だそうですが、口を開けて「君が代」を歌っているかどうかを調べた。歌というのは楽しく歌うものです。口をこじ開けて歌わそうなど拷問に等しいやり方だと思います。これを全国に広げようという企みは許されません。

他の党は橋下氏に対して情けない態度です。橋下氏にひれ伏してなびいています。ある党の幹部は「山下（芳生）さん（参院議員）の『思想調査』問題の）予算委員会質問は圧巻だった。あれはファシズムだと思います。共産党は立派だ」といいました。「それではそのことをはっきりいってくれますね」というと、「それだけは勘弁して下さい」といいました。

そういう状況にあるときに、彼らの理論的・政治的中身にたいして断固として立ち向かい、体を張ってたたかう党は日本共産党しかない、日本共産党の躍進でこんな危険な道をストップさせようじゃないか、そういう党はわが党しかありません。

「大変だ、大変だ」でなく、中身をよくみれば大変もろい、ひどい代物です。しかも民主主義破壊という点では異質の危険を持っています。これまでの生まれては消え、生まれては消えてきた他の新党とは違う、ファシズムに日本を導こうとする異質の危険を持っています。反動的な逆流に対して勇気を持って立ちあがる党は日本共産党しかないということにお互い確信を持ってがんばろうじゃありませんか。

□近畿にこそ躍進の条件がある

今日はいつまで経済の問題と外交の問題で、いずれも現状の告発と打開の方向を大いに語ろうといいましたが、そういうふうにと考えるとワクワクするような情勢がみえてきます。

「せっかく『二大政党』がダメになったとき、また『維新の会』が出てきた。前もチャンスだと思ったのに日本新党が出てきた、その前もチャンスだと思ったのに新自由クラブが出てきた、今度もまたダメなのではないか」、そう思ったら相手の思うつぼです。

民主主義を守る点ではファシズムを許すなど思想信条を超えた共同が広がっています。国民の審判を受けた小泉「構造改革」よりもっとひどい方向にもっていこうとする、そんな考え方が多くの国民の心をとらえるはずがありません。

こんなチャンスのとかがんばらなくて、いつがんばるのか、橋下「維新の会」の拠点の近畿がいちばん躍進した、いちばん躍進できる条件は近畿にこそある、逆の発想でそうとらえ、飲んでかかって軽視はしないが恐れず堂々とたたかう。これが今日の結成総会で一番言いたかったことです。

「大運動」でも近畿がいちばんがんばったといえる結果を4月から出す。5月末には全国活動者会議を久しぶりにやることを決めました。そこに向かって全国の先頭に立とうということと呼び掛けて私の話を終わります。

「近畿は一つ」。危機と希望が交錯する最前線で必ず衆院 4 議席を

山口勝利・党近畿ブロック責任者の報告と提案

こんにちは、本日は大変お忙しいなか、ご出席いただきましてありがとうございます。後援会の皆さんには、日頃から共産党への温かいご支援をいただいておりますこと、この機会に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

昨年 12 月の第 4 回中央委員会総会で、次の国政選挙で議席増を勝ちとるため、比例ブロックごとに政治目標実現へむけ政治・組織戦略を具体化することを決めました。その中で比例ブロック後援会連絡会の結成をよびかけました。今日はこのよびかけにこたえて、近畿ブロック連絡会を発足させるためにお集まりいただきました。

□後援会活動の新たな探求、「近畿は一つ」の取り組みを

市田さんからお話がありましたように、近畿ブロックは衆議院でも参議院でも大きな比重を占めております。議員数が多いだけでなく国民の願いで政治を動かす先頭にたち、抜群の働きをしてきましたのが、お一人お一人の議員さんです。まさに近畿の議席は、国政を動かす誇りある議席です。

来るべき総選挙で、穀田恵二さん、宮本岳志さん、清水忠史さん、堀内照文さん、60代、50代、40代、30代、近畿の各世代の要求・願いを反映する、そういう布陣を引いております。何としての 4 議席を獲得していく、こういう決意で臨んでいるわけでありませう。

来年の参議院選挙でも山下よしきさん、井上さとしさんの当選を絶対に勝ち取り、同時に大阪、兵庫、京都、かつて議席を獲得したその府県で議席奪還の責任を果たしていく、こういう非常に大きな役割を担っているのが近畿ブロックであります。

近畿は、かつて全府県で衆議院議員を獲得してきたところです。その当時、重要な役割を担っていたのが旧中選挙区時代の日常的な後援会活動でした。ところが、選挙制度の改悪と「二大政党づくり」という日本共産党排除の二重の仕掛けが強まるもとの、「国政選挙には力が入らない」という大変残念な状況が生まれました。こうしたことも後援会活動に少なからず影響を与えてきたのではないのでしょうか。

今回の近畿ブロック後援会連絡会の結成は、国政選挙での前進・勝利をめざし、文字通り後援会活動の新たな探求と発展をはかる、そのために各府県・選挙区・自治体・行政区・分野別の交流、連帯、学習にとりくみ、「近畿は一つ」「ブロックは一つ」の活動を推進していこう、そういうところにその目的があるわけです。

この活動を通じて単位後援会や分野別後援会の活動をいっそう励ましあいながら、後援会活動全体の日常化をはかっていく、その力になっていきたいと思っています。

□前進の条件あるが後退の危険もある選挙。大志とロマンを

来るべき総選挙で近畿ブロックでは 160 万票の得票目標、得票率で 13.3%を超えて、必ず 4 人全員の当選を果たす構えで挑んでおりますが、2010 年の参院選の得票は 80 万 7127 票ですから、その 2 倍の得票を実現しようという選挙です。前進の条件はハッキリあると思います。同時にわれわれがよくたたかわなければ、後退の危険もある、こういう厳しい選挙戦だと見ております。

ここからどう現状を打開していくかが大きく問われています。近畿の総選挙のたたかいは、その激しさ、厳しさは本当に未曾有のものだと思います。私は責任者として腹を決め、覚悟を持って立ち向かわなくてはならない重大な選挙だと決意しています。

だからこそ、この選挙戦の重要な意義を腹に落として大志とロマンをもってたたかうことが何よりも大事だと思っています。

「危機」と「希望」が交錯する情勢、その最前線である近畿ブロックで「第 1、第 2 の躍進の時期」

を思い起こしながら、何としても「第 3 の躍進の時期」をこの近畿が先頭に立って切り開いていく、民主連合政府樹立に向けて、本格的なスタートを切る、この心構えでがんばることが何よりも大事だと思います。

いま、消費税増税ストップ、TPP 参加反対、そして焦点の「原発ゼロ」と再稼働反対、大阪を中心にした橋下「維新の会」とのたたかい、それぞれの分野でのたたかいは通じて一点での共闘を広げ、それを積み上げることによって共闘をさらに広げていく。そういう重層的な共同をこの近畿でどう広げるか、そのなかで日本共産党の全体像を有権者に広げられるか、ここが勝敗の分かれ目になると思います。

□申し合わせと体制の提案

次に「申し合わせ」と「体制」についてご報告とご提案です。

(1) 名称は「日本共産党後援会近畿ブロック連絡会」とし、連絡事務所は、日本共産党国会議員団近畿ブロック事務所（大阪市中央区玉造 2-15-7 US ビル 2F）とする。

(2) 「日本共産党後援会近畿ブロック連絡会」は、「近畿はひとつ」の見地で、ブロック内の府県・小選挙区・自治体行政区、分野別後援会の交流・連帯・学習などの取り組みを具体化・推進し、国政・地方選挙の前進に貢献する。

(3) 役員体制については、各府県から若干名（会長・幹事長、事務局長）、分野別後援会（事務局長）から代表を出し、ブロック事務所の担当者もあわせ、ブロック連絡会の世話人会を構成する。世話人会は、随時開催し、会議は集まりやすい所や府県の持ち回りなど円滑にすすめる。申し合わせのご提案は以上 3 点です。

今後の本格的な活動については、新しい役員体制のもとで、提案の内容にそって大いに知恵を出して具体化をはかっていただきたいと思います。今日の集まりを出発点に交流、連帯、学習の運動を近畿全体の流れに広げていきたいと思っています。

□緊迫感もって総選挙に向かおう

それぞれの総選挙勝利めざす取り組みは、中央委員会、府県委員会の方針に沿って奮闘していただくこととなりますが、解散・総選挙含みの情勢ですので、緊迫感を持って総選挙に向かっています。

今度の選挙戦はいかに自らの選挙としてたたかうかが問われています。近畿 48 選挙区すべてに候補者を擁立し、日本共産党への支持を大きく広げる、これを皆さんとご一緒にやり抜いていきたい。いま選挙区ごとの演説会が開催されていますが、一つ一つを大きく成功させながら、増税ストップ、原発再稼働許すな宣伝、対話、支持拡大のうねりを広げていくことが大事だと思います。

党勢の拡大、後援会の力を大きくすることが勝利への道です。何としても前回総選挙時突破という目標を早期にやり抜くことが急務です。今日の結成総会を皮切りに総選挙勝利へ「近畿は一つ」の大きなうねりが切り開かれるようお願いして、私の報告にさせていただきます。

